戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	21215　公園事務費													
担当組織	環境経済部				みどり公園課							担当	公園担当	
組織コード	H30	15	06	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	04	06	02	01	記入日	平成30年06月06日
	H29	15	06	00		H29	01	08	04	06	02	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	○ 対象
分野	02	公園・水辺	● 対象外
施策	40	魅力ある公園づくり	
事業期間	平成１７年度 ～ 平成３２年度		
根拠法令 通 達 等		関連計画 施政方針	
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象			
事業目的	※予算編成用シート（指標等未設定）		
事業内容	※予算編成用シート（指標等未設定）		
実施主体	■市による単独直営　□委託　（□3ｾｸ･財団　□企業　□市民･NPO）　□協働･協力（　　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績		平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
事業内容		課内事務必要経費	課内事務必要経費	課内事務必要経費	課内事務必要経費	課内事務必要経費
事業費		1,839	2,456	2,437	2,437	2,437
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0
	その他	0	3	3	3	3
	一般財源	1,839	2,453	2,434	2,434	2,434
人件費		6,345.24	6,345.24	6,345.24	6,345.24	6,345.24
投入人員	常勤職員	0.92 人	0.92 人	0.92 人	0.92 人	0.92 人
	非常勤職員	0.15 人	0.15 人	0.15 人	0.15 人	0.15 人
事業費＋人件費		8,184	8,801	8,782	8,782	8,782

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①						
						－
活動②						
						－
成果①						
						－
成果②						
						－

目標達成状況の分析	－：未設定 ＜判断理由＞

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	－：未設定
	－	－	－	＜判断理由＞
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	－：未設定
	－	－	－	＜判断理由＞
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	－：未設定
	－	－	－	＜判断理由＞
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	－：未設定
	－	－	－	＜判断理由＞

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	○１現状で継続　○２拡大して継続　○３縮小して継続　○４他事業と統合　○５休止 ○６その他見直し　○平成３１年度で終了 ○平成３０年度で終了 ○平成２９年度で終了
	＜判断理由＞ 課内事務に必要な事業であるため。
今後の取組方針	

戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	7546　ちびっ子プール補助金事業													
担当組織	環境経済部				みどり公園課							担当	公園担当	
組織コード	H30	15	06	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	04	06	03	01	記入日	平成30年06月06日
	H29	15	06	00		H29	01	08	04	06	03	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	○ 対象
分野	02	公園・水辺	● 対象外
施策	40	魅力ある公園づくり	
事業期間	昭和４６年度 ～ 平成３２年度		
根拠法令 通達等		関連計画 施政方針	
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象	戸田市民（幼児）		
事業目的	町会地域内の親と子の心のふれあいの場として、ちびっ子プールを設置し、近隣社会の意識の高揚と健康で心豊かな人間づくりに寄与する		
事業内容	該当する町会の創意工夫により、安全で楽しく、ちびっ子プールの運営が行えるように補助金を交付する 各町会に、ちびっこプールを、原則７～８月末までの期間に、１４回以上開催することを伝えた上で、開設期間及び実施日時の設定を任せている		
実施主体	■市による単独直営　□委託　（□3ｾｸ･財団　□企業　□市民･NPO）　□協働･協力（　　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績		平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
事業内容		ちびっ子プール補助金事業	ちびっ子プール補助金事業	ちびっ子プール補助金事業	ちびっ子プール補助金事業	ちびっ子プール補助金事業
事業費		1,516	1,634	1,632	1,632	1,632
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,516	1,634	1,632	1,632	1,632
人件費		1,172.49	1,172.49	1,172.49	1,172.49	1,172.49
投入人員	常勤職員	0.17 人	0.17 人	0.17 人	0.17 人	0.17 人
	非常勤職員	0.08 人	0.08 人	0.08 人	0.08 人	0.08 人
事業費＋人件費		2,688	2,806	2,804	2,804	2,804

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①	補助件数	件	１施設あたり40,500円	37	37	34
				36	34	－
活動②	ちびっ子プール開設箇所	カ所		37	37	34
				36	34	－
成果①	ちびっ子プール開催日数	日	開設された全ちびっ子プールの平均	20	20	16
				16	15.8	－
成果②	ちびっ子プール延利用者数	人		12,000	12,000	10,000
				11,027	9,599	－

目標達成状況の分析	
	Ｃ：活動・成果ともに達成できなかった。
	＜判断理由＞ 事業目的に沿って、各町会がプール開設と運営しているが、34町会中、2町会が開設を取り止めたことや、天候の影響等もあり、利用者数は昨年度より減少した。しかし、ちびっこプールの利用延べ人数は約9,600人もあり、需要の高い事業であることから、今後も継続を図っていく。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ａ：施策の目標達成に大いに貢献している。
	Ａ	Ａ	Ａ	＜判断理由＞ 緒会内の公園にあるちびっこプールは、親と子の触れ合いの場や地域のコミュニティを構築する機会として活用されており、魅力ある公園づくりに貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：経費は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 各地域に設けられたプールの維持管理費は、年間利用日数から見ると多額だが、盛夏に子育て世代が地域の方々と顔見知りになれる機会であり、その運営も町会が主体となって運営され、その利用数が相当であることから、経費は適正の範囲にある。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：事業手法は適正な内容である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 当該事業は、市がプールの維持や運営支援を行い、各町会が開催・運営を行う官民協働にて実施しており、事業手法は適正な内容である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：受益・負担は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ ちびっこプールを利用される親子には、地元への愛着が生まれる同時に、地域や町会と繋がることで、町会等の方々とも顔見知りになる機会が生まれ、地域のコミュニティ形成が図れることから、受益・負担は適正の範囲にある。

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	ちびっこプールの運営を各町会が主体的に行われている中で生じた課題や要望について、各町会と市の役割と責任に応じて、臨機応変に対応した。
見直しの効果	ちびっ子プール運営における課題や要望に対して、臨機応変に対応することで、各町会に適った自主的な運営が可能になった。

5. 今後の方針

事業の方向性	● １現状で継続　○ ２拡大して継続　○ ３縮小して継続　○ ４他事業と統合　○ ５休止 ○ ６その他見直し　○ 平成３１年度で終了 ○ 平成３０年度で終了 ○ 平成２９年度で終了 ＜判断理由＞ ちびっ子プールは、夏場の2カ月程度の利用であることから、維持管理について検討の余地がある。今後は、ランニングコスト、管理主体、二次的利用等を検証し、ちびっ子プールの良い運営方法について検討を進める。
今後の取組方針	ちびっ子プール補助金事業については、地元町会の意向を確認しながら取り組んでいく。その結果、住民コミュニティを育む素晴らしい公園づくりにつながるよう、運営主体を応援していく。

戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	7485　公園維持管理事業													
担当組織	環境経済部				みどり公園課							担当	公園担当	
組織コード	H30	15	06	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	04	06	03	02	記入日	平成30年06月07日
	H29	15	06	00		H29	01	08	04	06	03	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	○ 対象
分野	02	公園・水辺	● 対象外
施策	40	魅力ある公園づくり	

事業期間	～ 平成３２年度		
根拠法令 通達等	都市公園法２条の３	関連計画 施政方針	都市マスタープラン 緑の基本計画
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象	市民、公園利用者等		
事業目的	公園等に訪れる方々が安心して利用できるように、適切な維持管理を行う		
事業内容	公園の樹木・施設物（球場を含む）の維持管理		
実施主体	□市による単独直営　■委託　（□ｺﾞﾐｾﾝﾀｰ･財団　■企業　■市民･NPO）　■協働･協力（　　）		

2. 実施結果

		平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
事業内容		公園施設や街路樹の適切な管理・公園管理業務委託	公園施設や街路樹の適切な管理・公園管理業務委託	公園施設や街路樹の適切な管理・公園管理業務委託	公園施設や街路樹の適切な管理・公園管理業務委託	公園施設や街路樹の適切な管理・公園管理業務委託
事業の予算・実績	事業費	365,783	384,553	470,853	470,853	470,853
	財源内訳 国庫支出金	0	0	0	0	0
	財源内訳 県支出金	0	0	0	0	0
	財源内訳 起債	0	0	0	0	0
	財源内訳 その他	0	9,020	34,535	34,535	34,535
	財源内訳 一般財源	365,783	375,533	436,318	436,318	436,318
	人件費	6,621.12	9,931.68	11,862.84	11,862.84	11,862.84
	投入人員 常勤職員	0.96 人	1.44 人	1.72 人	1.72 人	1.72 人
	投入人員 非常勤職員	0.08 人	0.09 人	0.11 人	0.11 人	0.11 人
	事業費＋人件費	372,404	394,485	482,716	482,716	482,716

		指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
目標達成状況	活動①	業務委託件数	件	業務委託契約件数	29	30	30
					29	30	－
	活動②						
							－
	成果①	業務委託執行率	%	業務委託報告書提出率	100	100	100
					100	100	－
	成果②						
							－

目標達成状況の分析	
	Ａ：活動・成果ともに達成した。 ＜判断理由＞ 当該年度は目標を達成することが出来た。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：施策の目標達成に貢献している。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 身近な公園等の植栽や公園施設を適切に管理することにより、公園利用者が集い、憩える安全な公共空間を保つことができており、施策の目標達成に適している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：経費は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 樹木の生長期間及び植栽場所に注目し、隔年剪定を実施することで経費の抑制を図っており、事業費等の水準は適正である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ａ：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	Ａ	Ａ	Ａ	＜判断理由＞ 民間企業に業務を委託することで、速やかに専門性を有する対応が可能になっている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：受益・負担は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 公園や緑等を適正に維持することで、まちの景観等を向上させ、地域に潤いを与えられることから、受益・負担は適正な範囲にある。

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	経費削減を図るため、修繕等の見積りにおいては、複数の業者から見積りを取り寄せて経費の抑制を図った。
見直しの効果	既存の委託業務内容の見直しを行いながら、歳出経費の抑制を図ることができた。

5. 今後の方針

事業の方向性	○１現状で継続　○２拡大して継続　○３縮小して継続　●４他事業と統合　○５休止 ○６その他見直し　○平成３１年度で終了 ○平成３０年度で終了 ○平成２９年度で終了 ＜判断理由＞ 公園開設から約30年経過した公園において、生長した樹木の管理経費、老朽化した施設の維持管理費の増加が予想される。 併せて、今後、都市整備事業等の進捗に伴い新設公園が開設されることから、予算規模の拡大を要望し、当該事業を推進する必要がある。
今後の取組方針	職員の増員が難しいことから、公園等の維持管理について、指定管理者制度導入などを検討する必要がある。 また、年々増大する経費を抑制すべく、最も経費が大きい植栽維持に関する剪定方法等を見直して、維持費の抑制と共に、公園施設の長寿命化を図っていく必要がある。また、町会委託など地域住民による維持管理の推進を検討していく必要がある。

戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	7620　公園施設整備・改修事業													
担当組織	環境経済部				みどり公園課							担当	公園担当	
組織コード	H30	15	06	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	04	06	04	01	記入日	平成30年06月11日
	H29	15	06	00		H29	01	08	04	06	04	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	● 対象
分野	02	公園・水辺	○ 対象外
施策	40	魅力ある公園づくり	

事業期間	～ 平成３２年度		
根拠法令 通達等	都市公園法３条 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（バリアフリー新法）	関連計画 施政方針	
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象	市民、幼児から成人、高齢者や障害者等の公園利用者		
事業目的	公園利用者の誰もが安心して安全に利用しやすい施設づくりと、快適な公園づくりを目指す。		
事業内容	①新設公園整備②公園施設の改修③ちびっ子プール塗装④公園出入口の段差改良等（バリアフリー化）⑤砂場の改修⑥公園時計設置⑦老朽遊具の更新		
実施主体	□市による単独直営　■委託　（□3ｾｸ･財団　■企業　□市民･NPO）　■協働･協力（　　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績			平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
事業内容			１号公園１期整備・プール撤去及び塗装・北部公園ﾊﾞ	１号公園２期整備・プール塗装・ソーラ一時計・公園	プール塗装・ソーラー時計・公園遊具改良・改修等	プール塗装・ソーラー時計・公園遊具改良・改修等・	プール塗装・ソーラー時計・公園遊具改良・改修等・
事業費			117,034	153,008	127,823	131,444	122,444
財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0	0
	起債		0	98,100	0	0	0
	その他		0	0	0	0	0
	一般財源		117,034	54,908	127,823	131,444	122,444
人件費			9,862.71	9,173.01	10,069.62	10,069.62	10,069.62
投入人員	常勤職員		1.43 人	1.33 人	1.46 人	1.46 人	1.46 人
	非常勤職員		0.05 人	0.08 人	0.02 人	0.02 人	0.02 人
事業費＋人件費			126,897	162,181	137,893	141,514	132,514

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①	バリアフリー化公園数	箇所	整備公園数	1	0	0
				0	0	－
活動②	砂場改修数	箇所	整備公園数	2	0	1
				1	0	－
成果①	バリアフリー化公園整備率	%	整備済公園数/整備必要公園数	64	64	64
				64	64	－
成果②	砂場改修率	%	整備済公園数67/整備必要公園数82	81	82	82.9
				82	82	－

目標達成状況の分析	
	Ｂ：活動・成果のいずれかを達成した。
	＜判断理由＞ 平成２９年度は要求する予算額が確保出来なかったため、公園新設及び遊具改修に重点を置いて、砂場改修やバリアフリー化は次年度以降に先送りしたことから、活動目標を達成することができなかった。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：施策の目標達成に貢献している。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 誰もが安全に公園が利用できるように、公園施設を整備・改修することで、魅力ある公園の実現を図っており、施策の目標に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：経費は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 公園の新設・改修時にはユニバーサルデザインの施設整備を行い、部分改修時には最新の安全基準に合致した遊具を適正配置するなど、整備による効果が大きい工事に事業費を効率的に配分しており、経費は適正な範囲にある。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：事業手法は適正な内容である。
	Ｃ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 公園改修・新設時には、ワークショップ等により公園利用者の意見をお聞きしながら、公園整備のコンセプトを検討した上で、設計・工事を行っていることから、事業手法は適正である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：受益・負担は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 公園のルールに則り、老若男女の利用者が互いに譲り合いながら、自由に使用できるように公園を整備・改修を進めているので、受益・負担の適正化は図れている。

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし。
見直しの効果	特になし。

5. 今後の方針

事業の方向性	● １現状で継続　○ ２拡大して継続　○ ３縮小して継続　○ ４他事業と統合　○ ５休止 ○ ６その他見直し　○ 平成３１年度で終了 ○ 平成３０年度で終了 ○ 平成２９年度で終了 ＜判断理由＞ 今後、公園が新設されていく地区と公園施設が老朽化する地区において、双方の公園施設内容の均衡を保ちながら、公園の新設整備と改良・改修を平行して進める必要があるため。
今後の取組方針	公園施設長寿命化計画に基づいて改修・改良を行い、老朽化した公園施設の更新と均衡を進めながら、特色のある公園リニューアル計画の策定を目指す。 同時に、土地区画整理事業の都市整備事業により造成された公園予定地には、県補助金等を活用して公園施設の整備・改修を図っていく。

戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	27525　荒川水循環センター上部利用計画事業													
担当組織	環境経済部				みどり公園課							担当	公園担当	
組織コード	H30	15	06	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	04	06	04	02	記入日	平成30年06月11日
	H29	15	06	00		H29	01	08	04	06	04	03		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	○ 対象
分野	02	公園・水辺	● 対象外
施策	40	魅力ある公園づくり	

事業期間	平成２０年度 ～ 平成３０年度		
根拠法令 通達等	下水道事業における環境対策施設の整備について （平成１１年１月１１日.通知）	関連計画 施政方針	「彩の国アーバンアクア広場計画」 「戸田市荒川処理センター上部利用計画」 「戸田市都市マスタープラン」
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象	市民並びに市外者		
事業目的	埼玉県が進めている「彩の国アーバンアクア広場計画」、並びに、平成１５年に策定された「戸田市荒川処理センター上部利用計画」に基づいて戸田市荒川処理センターの上部空間の有効活用を図る		
事業内容	平成２１年度に、戸田市荒川処理センターの上部空間（全面積５．６ｈａ）の一部が整備され、暫定的に供用（埼玉県が整備）された。平成３０年度内の全面供用を目指し、公園管理棟や運動施設の整備について、埼玉県、関係団体、地元協議会等と協議・調整を図り、上部空間の整備を図っている		
実施主体	□市による単独直営　■委託　（□3ｾｸ･財団　■企業　□市民･NPO）　□協働･協力（　　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績

		平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
事業内容		上部公園４期整備工事（・イベント交流広場・管理棟	上部公園の全面供用開始・上部公園の維持管理等			
事業費		200,732	79,493	0	0	0
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0
	その他	0	17,800	0	0	0
	一般財源	200,732	61,693	0	0	0
人件費		4,965.84	6,345.24	0	0	0
投入人員	常勤職員	0.72 人	0.92 人	0 人	0 人	0 人
	非常勤職員	0.05 人	0.03 人	0 人	0 人	0 人
事業費＋人件費		205,698	85,838	0	0	0

目標達成状況

	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①	地元懇談会の開催	回	２団体×１	1	1	1
				1	1	－
活動②						
						－
成果①	懇談会参加人数	人	1回×２０	20	20	20
				27	23	－
成果②						
						－

目標達成状況の分析	
	Ａ：活動・成果ともに達成した。 ＜判断理由＞ 当該年度は目標を達成することが出来た。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：施策の目標達成に貢献している。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 荒川水循環センターの上部空間は、都市部の貴重なオープンスペースとなっている。この空間の有効活用を図るため、地元と調整を図りながら、魅力ある公園の整備・開設を目指しており、施策の目標達成に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ａ：経費の精査が十分になされている。
	Ａ	Ａ	Ａ	＜判断理由＞ 埼玉県との協議を経て、地元の意見を反映させた設計や積算の精査が十分になされ、入札等を経て、上部公園が整備されていることから、経費の精査が十分になされている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：事業手法は適正な内容である。
	Ｃ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 平成27年度の埼玉県工事の遅れに伴い、上部公園の全面供用の開始年度を改めたことから、平成30年度の全面供用に向けて、順調に工事並びに準備が進んでおり、事業手法は適正な内容である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：受益・負担は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 地域の住民は元より、広く市民の方々が利用できる上部施設を整備することから、受益・負担は適正な範囲にある。

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし。
見直しの効果	特になし。

5. 今後の方針

事業の方向性	○１現状で継続　○２拡大して継続　○３縮小して継続　○４他事業と統合　○５休止 ○６その他見直し　○平成３１年度で終了　●平成３０年度で終了　○平成２９年度で終了 ＜判断理由＞ 平成２２年７月１日に一部オープンした（仮称）荒川水循環センター上部公園は、埼玉県が主体となり水処理施設の上部覆蓋の人工地盤を整備し緑化をおこなった。 市は、平成１５年２月に策定された「戸田市荒川処理センター上部利用計画」に基づき、地元協議会と調整を重ねた結果である施設の整備方針に基づき、平成２９年度にイベント交流広場及び管理棟工事を完了したことで、平成３０年度に全面開設を予定している。 平成３０年度以降は、同公園の維持管理等が主な業務になることから公園維持管理事業に移行するものとし、荒川水循環センター上部利用計画事業は平成３０年度で終了いたします。
今後の取組方針	特になし。

戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	23820　公園等管理台帳事業														
担当組織	環境経済部				みどり公園課							担当	公園担当		
組織コード	H30	15	06	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	04	06	04	97	記入日	平成30年06月11日	
	H29	15	06	00		H29	01	08	04	06	04	01			

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	○ 対象
分野	02	公園・水辺	● 対象外
施策	40	魅力ある公園づくり	

事業期間	平成１６年度 ～ 平成３２年度		
根拠法令 通 達 等	都市公園法第１７条第２項	関連計画 施政方針	統合型ＧＩＳシステム
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象	市民、公園利用者		
事業目的	事務の効率化、市民サービスの向上を目的として、統合型ＧＩＳとの整合を基本にデータの一元化整備を図る		
事業内容	①既存資料から公園施設・樹木の現地調査 ②現地調査等で得られたデータの整備 ③ＧＩＳによる市民への情報提供		
実施主体	□市による単独直営　■委託　（□3ｾｸ･財団　■企業　□市民･NPO）　□協働･協力（　　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績			平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
事 業 内 容			・改修等によるデータ更新 ・保守点検				
事　業　費			1,426	0	0	0	0
財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0	0
	起　　債		0	0	0	0	0
	そ の 他		0	0	0	0	0
	一般財源		1,426	0	0	0	0
人　件　費			965.58	0	0	0	0
投入人員	常勤職員		0.14 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	非常勤職員		0.08 人	0 人	0 人	0 人	0 人
事業費＋人件費			2,392	0	0	0	0

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①	業務委託件数	件		1	1	
				1	1	－
活動②	紙ベース資料の電子化	件		1	1	
				1	1	－
成果①	業務委託完了率	%		100	100	
				100	100	－
成果②	インターネット配信実行率	%		100	100	
				100	100	－

目標達成状況の分析	
	Ａ：活動・成果ともに達成した。 ＜判断理由＞ 当該年度は達成できた。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：施策の目標達成に貢献している。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ いいとだパークを通して公園情報を提供している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：経費は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 四半期毎の保守点検が滞ることなく実施され、システム稼働に不備がなかった。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：事業手法は適正な内容である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 民間企業に業務を委託することで、速やかな対応が可能となった。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：受益・負担は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 本事業は公園の情報提供を司るシステムであり、受益・負担は適正の範囲にある。

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし
見直しの効果	特になし

5. 今後の方針

事業の方向性	○１現状で継続　○２拡大して継続　○３縮小して継続　○４他事業と統合　○５休止 ○６その他見直し　○平成３１年度で終了 ○平成３０年度で終了 ●平成２９年度で終了 ＜判断理由＞ 平成１６年度にシステムを導入して以来、システム内容の更改を行っていないことから、現状の業務手順に適わないところもあり、見直しを必要としているが、平成３０年度から公園維持管理事業に統合して、継続していく。
今後の取組方針	平成３２年度以降に、修繕等を要する苦情処理業務、都市公園占用業務の処理をできる機能など必要な機能を追加することにより、業務の効率化を図るために台帳の見直しを図っていきたい。